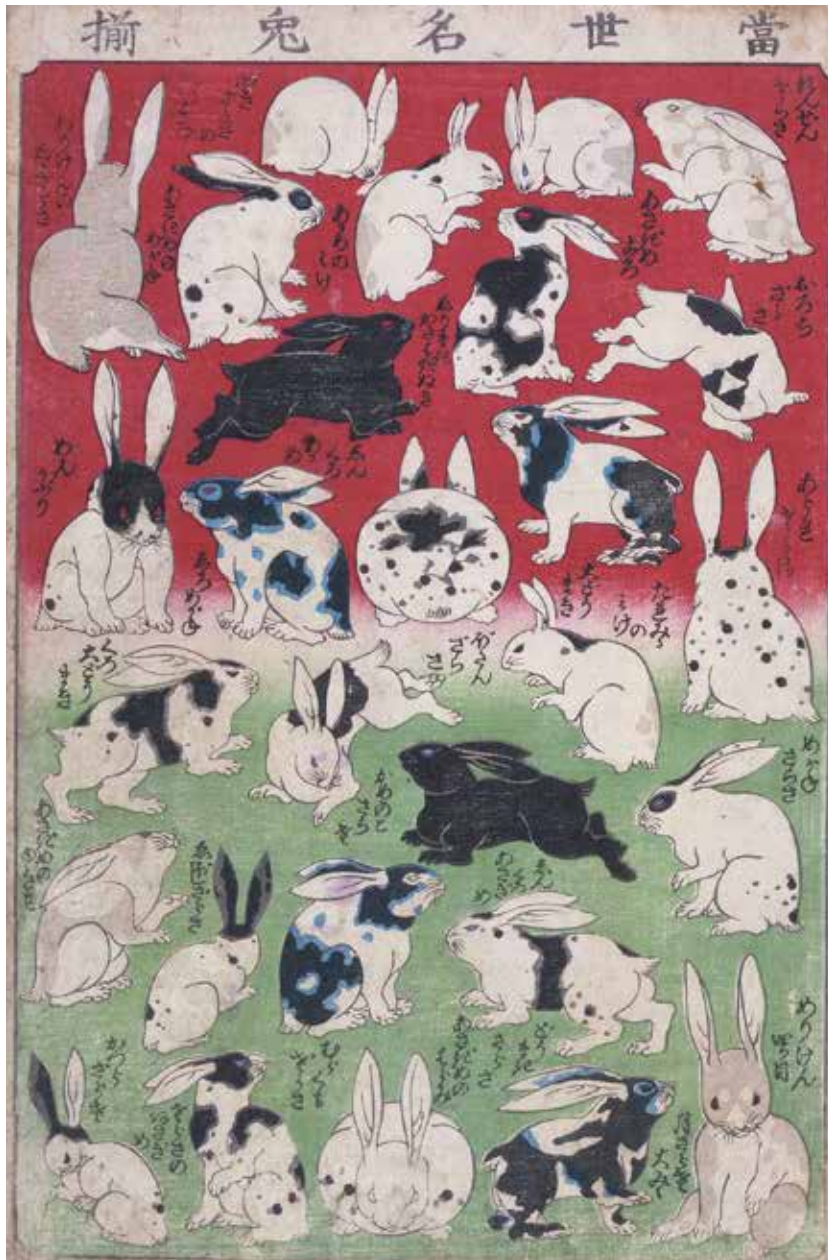


*江戸東京博物館は大規模改修工事のため2025年度中(予定)まで休館しております。



ソウルとパリで 国際交流事業を開催

CONTENTS

- 2022日中韓博物館国際シンポジウム、国際交流展がソウルで開催
- 国際交流展がパリで開催 いきもの：江戸東京 動物たちとの暮らし
- 研究の散歩道 およそ100年前の紙上イベント ～「一万マイル記念 鉄道競争」

2022日中韓博物館 国際シンポジウム、 国際交流展がソウルで開催

2022年(令和4)9月5日、韓国のソウル歴史博物館にて日中韓博物館国際シンポジウムが開催されました。

2002年(平成14)から当館と北京首都博物館、瀋陽故宮博物館、そしてソウル歴史博物館が毎年持ち回りで行ってきましたが、コロナの影響で中断し、3年ぶりに再開されたものです。残念ながら北京首都博物館はリモートで

の参加、瀋陽故宮博物館は欠席となりましたが、当館の代表団は現地に赴いて旧交を温めることができました。

今回は「都市博物館と未来戦略」というテーマのもと、パネリクに直面した各館が実践し、これから果たすべき役割について計画している内容をそれぞれ発表したのち、活発な意見交換が行われました。また、ソウル歴史博物館で



リモートを交えてのパネルディスカッション



国際交流展「隅田川」展示会場

*写真提供:ソウル歴史博物館

は当館との国際交流展「隅田川——江戸時代の都市風景」が、9月7日から10月23日まで開催されました。2019年(令和元)に当館で行われた企画展「18世紀ソウルの日常——ユマンジュ日記の世界」に続き、両館の研究交流の成果として発表されたものです。当館の所蔵品から、近世の隅田川流域における生活と文化を紹介した本展は、江戸の人々が隅田川に寄せた関心が、ソウル市民にとっては市内を流れる漢江に対する想いと共通するものとして、身近に感じていただけたようです。国際間での博物館交流がさらに一歩ずつ前に進んでいくよう、当館ではこれらの活動を大切に継続していきたく考えています。

国際交流展が。ハリで開催

いきもの…江戸東京動物たちとの暮らし

2022年(令和4)11月9日(水)

〜2023年(令和5)1月21日(土)

当館では、休館中の事業の一つとして、フランス・パリ市にあるパリ日本文化会館と共同で、「いきもの…江戸東京動物たちとの暮らし」展を開催しました。

江戸東京の人々と動物たちの関わりをテーマとした本展では、版画・漆工・染織・玩具などの幅広いジャンルの所蔵品全112件から人と動物の共存の様子と歴史を伝えました。本展にて、当館の収蔵品が初めてフランスで大規模に紹介されました。

動物との暮らしは、パリの方々にも親しみやすくご覧いただけたようです。

当館学芸員が執筆



展示会場

およそ100年前の紙上イベント 「二万マイル記念 鉄道競争」

学芸員

新田太郎・文

1 924年(大正13)、『毎日新聞』の前身、『大阪毎日新聞』(以下「大毎」呼称)と傘下の『東京日日新聞』(以下「東日」)の紙上で、

二万哩(マイル)記念「鉄道競争」という企画が実施された。国内の鉄道が記念碑的な距離に達したことにちなみ、両社が記者を5名ずつ選抜、大阪と東京に設定された起点から全国の

鉄道路線をリレー方式で巡り、出発地まで戻る早さを競うイベントだった。

8月2日の告知から20日の出発まで、紙上で実施の要件を定める過程が報じられた。その間、鉄道省が後援し、審判員に仙石貢大臣ほか3名が就任すること、鉄道局が「選手」の乗車する列車のダイヤグラムを作成し、手順をアドバイスすること、選手の通過証に駅員が

乗降日時を記入し、確認印を押す規則を定めることなどが知らされた。

8月21日の朝刊からは参加記者による記事が連載され、緊迫した競争の様子と各地の気候風土、名所名物名産などの情景が伝えられた。読者もこれに参加し興味を共感し、鉄道に関する知識も広まるという趣旨で読者投票も行われた。結果は9月28日に先着した大毎の勝利。東日が約1日遅れで到着するまでの40日間の競争だった。

翌1925年の大毎新年号には、写真の「鉄道競争すごろく」が付録にされた。全国の路線図に各所の特徴が描き込まれた双六には、遊び手がマス目の駅を通過する際に、審判員が駅名の札を渡すというルールが定められ、下部に駅名入りの札が付けられている。主要駅のマス目に止まると一回休みとなる双六らしい設定もあるが、本紙上の競技の再現に成功している。



「鉄道競争すごろく」(部分拡大)

この企画は、マスメディアが社会的状況を創出することを目指して催事を行う、メディア・イベントとしての性質を有していた。両社のこうした活動は、1926年に当時の人口を上回る、1億近くの投票があった紙上企画、「日本新八景」の選定に連なっていた。

「鉄道競争すごろく」 1925年(大正14) 大阪毎日新聞社/発行 資料番号 99002055

休館中も事業を実施しています

当館は2022年(令和4)4月1日から2025年(令和7)度中(予定)まで大規模改修工事のため休館中です。休館中も館外の他会場等を活用した事業を実施しています。詳細につきましては確定し次第、ホームページやSNS等でお知らせいたします。

リニューアル準備室へ移転しました

2022年(令和4)10月11日に「東京都江戸東京博物館リニューアル準備室」を開設し、博物館のリニューアルオープンに向けた準備をまた一歩進めることができました。

大規模改修工事のため長期にわたる休館となりご迷惑をおかけいたしますが、また皆さまに足を運んでいただける博物館となるよう、職員一同努めてまいります。



長期休館中の

図書室の 仕事 Vol.9

図書室から
お知らせ

ただいま準備中

休館中の博物館。職員は敷地内のリニューアル準備室で執務しています。何をしているのか不思議に思うかもしれませんが、図書スタッフはこの間に傷んだ書籍の補修をしたり、改修後の図書室の図面の検討、検索システムの情報強化など、リニューアルに向けた仕事を着々と進めているのです。

また、前号でお知らせしたように、希望者が希望の本を事前に予約し、準備室の図書閲覧室で読むことができるよう準備中です。席に限りがありますが、当館ならではの本の閲覧にお応えするとともに、類似図書の所蔵館をお調べするなどのアドバイスも行う予定です。閲覧室の4月の開室を目指し、一同全力で頑張っています！



図書閲覧室のレイアウトを検討中

伝統芸能公演

気軽に伝統芸能や歴史・文化に親しんでいただける「観る・学ぶ・楽しむ えどはくスペシャル公演」。2022年(令和4)度は都内ホールにて4つの公演「弁士とピアノ演奏付き無声映画」「殺陣入門」「はじめての三曲」「おたのしみ寄席」を開催。

学芸員によるミニ講座や、出演者の解説、体験コーナーなど、子供から大人まで当館ならではの企画をお楽しみいただいています。今後の開催情報は、ホームページに随時掲載しますのでお楽しみに！



江戸東京博物館 NEWS Vol.117

ホームページ <https://www.edo-tokyo-museum.or.jp>

お問い合わせ 03-3626-9974 (代表) 平日9時30分から17時30分まで
発行日 2023年1月20日(金)
編集・発行 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館
〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1
制作・印刷 株式会社D_CODE



表紙解説

とうせいめいとうき 当世名兎揃

1872～73年(明治5～6)頃
資料番号 10200142

明治初期、富裕層が外来種のカイウサギを観賞用に飼育するようになるなど、東京を中心に空前絶後の兎ブームが起こった。珍しい毛並みの兎が高値で売買されることもあり、交配による品種改良も行われた。本資料はそうした流行の中発行された刷物で、毛並みが評判となった兎を紹介している。本年の干支にちなみ、パリにて展示の本資料を表紙とした。

